

事例 1

高齢者の外出支援対策の検討

パーソントリップ調査のデータでは、年齢階層別の外出状況や、家族の送迎によって日常生活を過ごしている人がどこに住んでいるかが分かります。

高齢者の外出支援対策の検討などに活用できます。

移動に困っているお年寄りの居住地がわかると・・・

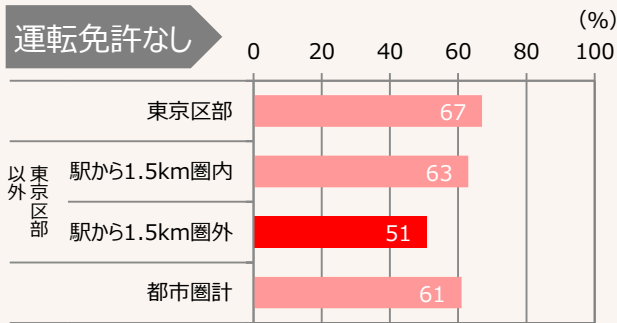
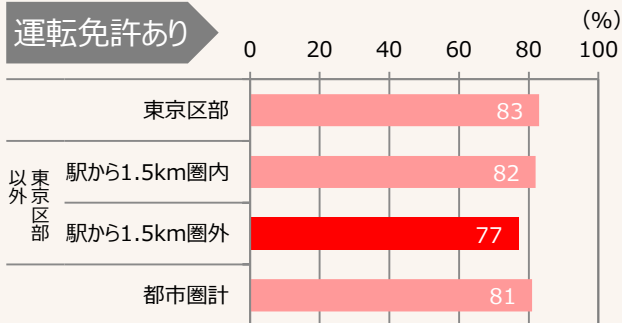
コミュニティバスの導入地域の選定等に活用できます



— PTデータからわかること ① —

家が鉄道駅から遠く、運転免許も持っていない高齢者は、外出する割合が低くなる傾向があります。

【居住地域別の高齢者の外出率】

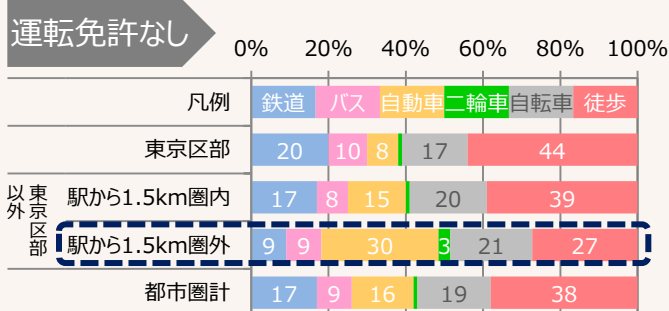
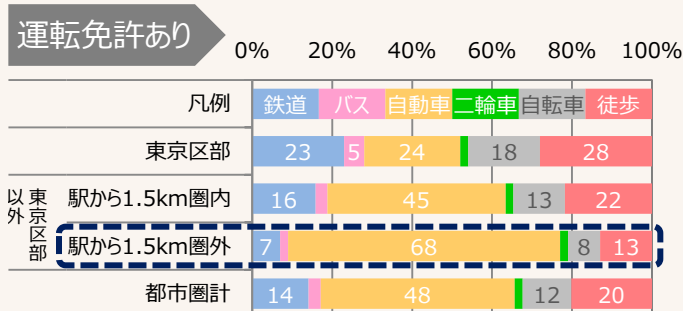


— PTデータからわかること ② —

免許有りの高齢者は自動車利用に高く依存しています。

免許を持たない高齢者は免許なしの高齢者の約 4 割の移動手段が徒歩で、自動車に同乗した移動も 3 割を占めます。

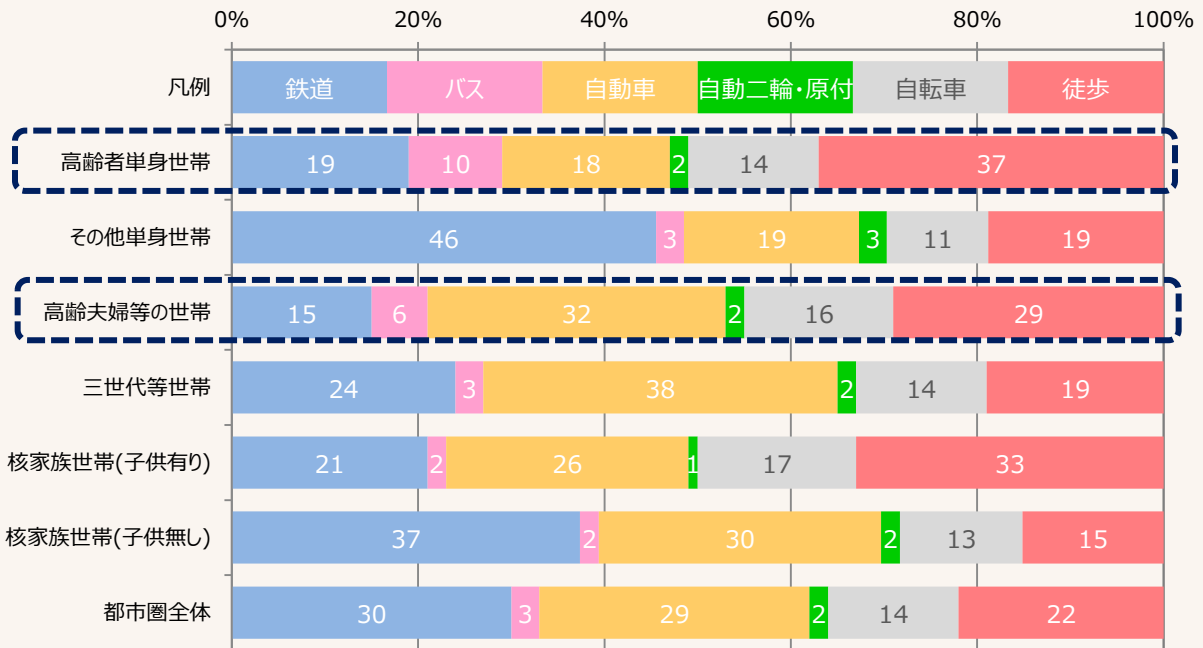
【居住地域別の高齢者の代表交通手段分担率】



— PTデータからわかること ③ —

- 高齢世帯では、バスでの移動する人が多く、鉄道での移動は少ない傾向です。高齢者単身世帯は、徒歩での移動が多い傾向です。
- 高齢者が利用しやすい運行ルート of 検討が必要です。高齢者が安全に歩き回れるような街路整備が必要です。

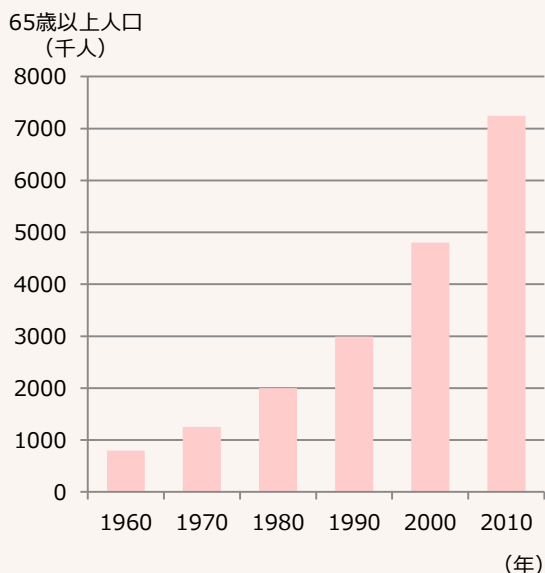
【世帯類型別の代表交通手段分担率（H20／平日）】



— PTデータからわかること ④ —

- 高齢者の人口は大幅に増加しています。高齢者の自動車依存は年々高まっています。
- 自動車に頼らなくても、高齢者が移動できる環境整備が必要です。

【65才以上の人口】



【65才以上の交通手段分担率の変化】

